

第 19 回協働実践研究会報告

2024 年 2 月 15 日 (木) 12:30~18:00、第 19 回協働実践研究会が昭和女子大学にて開催されました。第 16 回から 18 回までの研究会はオンライン開催でしたが、今回は対面で実施することができ、約 50 名の方に参加いただきました。

当日のプログラムは以下の通りです。

12:30~ 開会、プログラム説明 金孝卿 (麗澤大学)	201大教室
海外事情 1: 「アジアの今」 ファシリテーター: 池田玲子 (昭和女子大学)	
韓国: 金志宣 (梨花女子大学 教授)	
台湾: 羅曉勤 (台中科学技術大学 教授)	
インドネシア: フランキー・ナヨアン	
(マナド国立大学 教授、インドネシア協働実践研究会拠点 代表)	
海外事情 2: 「アジアのこれから」 ファシリテーター: 館岡洋子 (早稲田大学)	
タイ: テバンディット チッチャノック	
(チェンライラチャパット大学)	
ベトナム: ホアンティランニー (フエ大学外国語大学)	
13:05~ 講演・ワークショップ	201大教室
講 演: 「韓国の協働実践研究の動向」 金志宣	
(梨花女子大学 教授、韓国日語教育学会 会長、韓国協働実践研究会 代表)	
ワークショップ: 「台湾のケース学習授業」 羅曉勤	
(台中科学技術大学 教授、台湾協働実践研究会 代表)	
15:00~ 研究発表 (口頭)	201大教室
① ベアによる再話活動における教師の役割	
- 学生アンケートを中心に - 佐藤淳子 (北海道大学)	
② ピア・レスポンスにおける学習者同士の環境づくり	
- オンラインによる活動から - 陳世花 (昭和女子大学大学院生)	
③ 日本語ケース学習授業の実践	
- アジアからの留学生に注目して - 多田苗美 (昭和女子大学)	
16:40~ ポスター発表	301,302教室
① NNS サポーターと学習者の協働学習	
- 「再話活動」の設計 - 金孝柱 (昭和女子大学大学院生)	
② AI Chatbot を利用した会話指導の実践報告	
- 会話における「普通体」の導入と練習を中心に - 潘寧 (台湾大同大学)	
③ 教室での対話における「聞く」ことの重要性	
- 協働学習の授業への参加を通して - ファムトゥアンシン (早稲田大学大学院生)	
④ 日本に留学して学ぶ高校生の言語レパートリーと言語観	
- ある高校留学生への日本語支援からの気づき - マルキン舞 (昭和女子大学大学院生)	
⑤ ケース学習による価値創造をめざす共修クラスの実践	
- 留学生と学び合う日本人学生に注目して - 多田苗美 (昭和女子大学)	
⑥ 日本におけるノンネイティブ日本語教師の役割	
- 郭旭丹 (昭和女子大学大学院生)・近藤彩 (昭和女子大学大学院生)	
⑦ 日本語教育専攻の外国人大学院生を対象とするピア・レスポンスの活動	
- 王辛夷 (昭和女子大学大学院生)	
18:00 閉会、ご挨拶 近藤彩 (昭和女子大学)	201大教室

学) より海外事情の報告がありました。

まず池田玲子 (昭和女子大学) 氏をファシリテーターとして、「アジアの今」というテーマで海外事情の紹介がありました。韓国 (金志宣氏 梨花女子大学、韓国日語教育学会 会長、韓国協働実践研究会 代表)、台湾 (羅曉勤氏 台中科学技術大学、台湾協働実践研究会 代表)、インドネシア (フランキー・ナヨアン氏 マナド国立大学、インドネシア協働実践研究会拠点 代表) より各国・各地域における現在の事情を報告していただきました。

そして、館岡洋子 (早稲田大学) 氏をファシリテーターとして、「アジアのこれから」というテーマでタイ (テバンディット チッチャノック氏 チェンライラチャパット大学)、ベトナム (ホアンティランニー氏 フエ大学外国語大





つづいて、金志宣氏から「韓国の協働実践研究の動向」をテーマに、ピア・レスポンス実践研究の現状と課題を明らかにするために行った文献レビュー結果を中心にお話しいただき、その後ファシリテーターの館岡氏からご講演についてコメントがありました。

それから、羅曉勤氏により「台湾のケース学習授業」をテーマにワークショップを行っていただきました。羅氏の豊富な実践経験を伺いながらケース学習の考え方を理解し体験することができました。ワークショップを受けて近藤彩（昭和女子大学）氏とフランキー・ナヨアン氏から各自のフィールドでのケース学習導入可能性についてディスカッションが行われました。

その後の研究発表では、3つの口頭発表がありました。

- | |
|--|
| ① ペアによる再話活動における教師の役割－学生アンケートを中心に－
佐藤淳子（北海道大学） |
| ② ピア・レスポンスにおける学習者同士の環境づくり－オンラインによる活動から－
陳世花（昭和女子大学大学院生） |
| ③ 日本語ケース学習授業の実践－アジアからの留学生に注目して－
多田苗美（昭和女子大学） |

①佐藤淳子（北海道大学）氏の発表は、ある大学で行った「ペアによる再話活動」を取り入れた授業実践について学生アンケートを中心に振り返り、学生主導型の授業において教師のふるまいがどのように評価され、授業満足度にどのように影響を与えたのかを考察したものでした。分析の結果、授業の満足度は非常に高く、教師が主にファシリテーターとして関わる学生主導型の授業であっても、雰囲気の醸成、授業終盤の解説など、教師が担う役割が学生の満足度や学習意欲に影響を与えていることが示唆されたとのことでした。

②陳世花（昭和女子大学大学院生）氏の発表は、オンラインでのピア・レスポンスでは学習者同士がどのような学習環境作りをしているかを分析したものでした。その結果、①仲間の視点をもとに自分を振り返る、②自分自身を語ることによって学び手のコミュニテ

ィ内の立ち位置を意識する、③積極的な発言で場づくりに貢献する、という実態が見られ、学習者同士の相互行為の中で、主体的に学習環境作りを行っていたということでした。

③多田苗美（昭和女子大学）氏の発表は、日本に留学した学生を対象とした協働学習に基づくケース学習を用いた日本語授業と、そこでのアジア留学生の学習参加の様子を報告したものでした。分析の結果、ある留学生は活動が進むにつれて、少しずつコミュニケーションに対する考え方方が変化していったこと、また登場人物に自身を重ね合わせ、コンフリクトを疑似体験し、問題を自分ごととして深く捉えた上で問題解決が生まれていることが確認できたとのことでした。



- | |
|--|
| ① NNS サポーターと学習者の協働学習－「再話活動」の設計－
金孝柱（昭和女子大学大学院生） |
| ② AI Chatbot を利用した会話指導の実践報告
－会話における「普通体」の導入と練習を中心について－
潘 寧（台湾大同大学） |
| ③ 教室での対話における「聞く」ことの重要性－協働学習の授業への参加を通して－
ファムトゥアンチン（早稲田大学大学院生） |
| ④ 日本に留学して学ぶ高校生の言語レパートリーと言語観
－ある高校留学生への日本語支援からの気づき－
マルキン舞（昭和女子大学大学院生） |
| ⑤ ケース学習による価値創造をめざす共修クラスの実践
－留学生と学び合う日本人学生に注目して－
多田苗美（昭和女子大学） |
| ⑥ 日本におけるノンネイティブ日本語教師の役割
郭旭丹（昭和女子大学大学院生）・近藤彩（昭和女子大学大学院） |
| ⑦ 日本語教育専攻の外国人大学院生を対象とするピア・レスポンスの活動
王辛夷（昭和女子大学大学院生） |

ポスター発表では 7 名の方から発表がありました。発表者と聴衆の間で活発な意見交換が行われている様子が見られました。



事後アンケートには「地域による協働学習をめぐる現状がわかり、たいへんありがとうございました」「羅先生のメタ解説入りのファシリテーション生中継は本当に実践的でした」などの好意的なお声が聞かれました。タイムスケジュールについてやポスター発表の実施方法などのご意見、コメントもいただき、今後の運営に活かしていこうと考えています。

18:00 からは 21 名の参加者で懇親会が行われました。大勢の方にご参加いただき、懇親の場として大変有意義な時間を過ごすことができました。参加してくださった皆様、ありがとうございました。



文責：小浦方理恵